

熊さん 「エッ。ごめんなさ」。

御隠居 「おいおい、逃げなくともいいよ。ハッハッハ。たしかにケチだし偏屈だからな。で……、いってえ、どうするんだい。バックをボカしてえんだろ」。

熊さん 「わかったよ。わかったよ。おっしゃるとおりにしちすよ……。畜生……。なんまんだが……」。

御隠居 「そいで、おめエ……。説明をするにやあ、レンズが必要だな……」。

……確か、おめエの親父さんは50ミリの標準レンズをよく使っていたから、たぶんあるだろう。標準レンズもちゃんとオーバーホールをやってるな。ちよいと持ってきたな」。

熊さん 「エッ、今すぐかい。……じゃあねえな。晩飯はここで食ってやるから、飯でも炊いて待ってな」。

御隠居 「おやおや……。ズウズウしい野郎だね。本当に……。ハッハッハ。

おい、熊が今晚ここで飯を食うっていうから、悪いが何か見繕ってくれ」。

*

*

熊さん 「御隠居、持ってきたよ。一本だけなんてエケチくせえこと、でえ嫌えだから、みんな持ってきてやった。ついでにオツカアからの手土産も……」。

御隠居 「おや、そりゃ悪いねえ。カミさんに礼を言ってくれ。で、みんなって、いってえ、何本くれえ持ってきたんだ」。

熊さん 「えーと、24ミリ・35ミリ・50ミリ・105ミリ、それに200ミリだ」。

御隠居 「五本もか……。まあ、とりあえず50ミリの玉（レンズのこと）だけでいいから……」。

おいおい、おめエ、レンズはいつもケースに入れっぱなしか。移動の時はしかたねえとして、家に置いておく時くれえは、風通しのいいところに置いてやってくれ。そうでねえと、梅雨時なんかすぐにカビが生えちまうからな。本当は除湿庫に入れとくのが一番なんだが……」。

熊さん 「へネー、そんなもんですかい。ほい、御注文の50ミリ」。

御隠居 「で、その50ミリの絞りリングを見てみな」。